



消防用設備等点検結果報告率の向上に向けた官学連携事業

「消火器・誘導標識点検アプリ KIKATTO ～キカット～」の開発



宮城県 仙台市消防局

事例類型 I 実効性向上 / III 効率化 / IV 他団体との連携
取組期間 平成30年9月から

背景

消防用設備等点検結果報告率の向上は全国的な課題であり、平成30年度の仙台市の報告率は31.8%と全国平均の49.8%を大きく下回る結果となった。従前より低い水準で推移している点検結果報告率を改善するため、原因の分析を行い、その結果、有資格者による点検を要しない1,000㎡未満の防火対象物、中でも共同住宅の報告率が低いことが判明し、課題を4項目に絞り検討を行った。

- ① 消防用設備点検報告制度の周知不足
- ② 法令知識がなく、自ら点検が出来ない
- ③ 業者へ点検依頼することによる費用負担
- ④ 法定様式への記載が難しい

平成30年4月1日から総務省消防庁では「消火器点検アプリ」試行版の運用を開始していたが、本市が抱える課題の解消に向け、当局内でも一般市民が使いやすいアプリ開発についての検討を行った。

検討の結果、消火器と誘導標識のみを設置している共同住宅において、法令知識のない一般市民の関係者が簡単に点検し、報告書を作成出来る無料のアプリが望ましく、企業へ開発費を見積もったところ、概算で3,000千円を超える費用が発生することが判明し、開発は難しい状態となった。

平成30年7月に仙台市が目指す消防防災力の向上と東北福祉大学が目指す地域福祉の向上に必要な人材育成を図ること等を目的に、「地域消防力の向上等に関する協定」を締結しており、これを受け、既に様々なニーズに合わせたアプリの開発実績がある東北福祉大学情報福祉マネジメント学科へアプリ開発について問い合わせたところ、当局の目指す市民が使いやすいアプリの開発が可能と回答があり、大学の学業及び研究の一環として事業連携し、アプリ開発を行うこととなった。

内容

「キカット」のコンセプト及び内容

● アプリ開発プロジェクトチーム

- ・大学生を主体としたプロジェクトチーム
- ・開発における費用負担は発生していない
- ・官学連携事業としての点検アプリの開発は全国初
- ・市民目線より使いやすいアプリを目指し事業を展開

● 一般市民が使いやすいアプリ仕様

- ・アプリのダウンロードを行わないWEBアプリ形式
- ・パソコン、タブレット、スマートフォンで利用可能
- ・アプリの利用は無料(別途通信料は発生)
- ・個人情報の入力はない(個人情報漏洩対策)

● 学生主導のもとユニバーサルデザインの採用

- ・点検項目の左に○、右に×を配置するシンプルな回答方式
- ・高齢や色覚に配慮が必要な人※にとっても使い易い文字の大きさ、見えにくくなる色の組み合わせを避けた色使い

※色覚に配慮が必要な人の割合

- ・男性の20人に1人
- ・女性の500人に1人

各種媒体に対応



色覚多様性対応

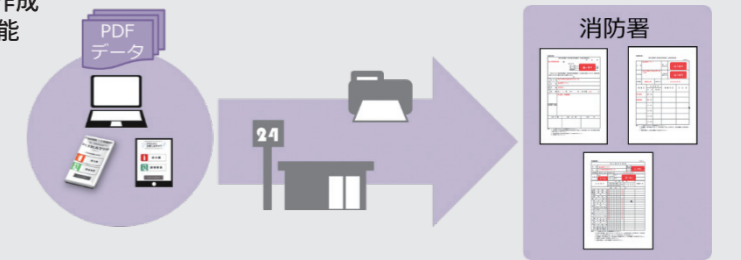


アプリ画面



- 法令知識の有無に左右されない点検項目
 - ・消火器・誘導標識の法定点検を網羅する全44項目
 - ・点検項目には全て学生オリジナルイラストによる説明付き
 - ・法令用語を平易な表現に変更
 - ⇒年齢を問わず日常的に用いている言葉に置き換えることで、どのような状況なのかをイメージし易くした。
- 分かりづらい法定様式を簡易に作成、全国で使用可能
 - ・アプリの項目を入力することで報告書を作成
 - ・法定点検、法定様式の為、全国で利用可能
 - ・消防用設備等点検結果報告書をPDF形式でダウンロード
 - ・印刷した報告書へ個人情報の記載、押印を行えばそのまま消防署へ提出可能

イラスト例



成果

「課題に対する成果」

市民による「自ら点検」と「報告書作成」の簡便なツールの完成

① 消防用設備点検報告制度の周知不足について

リリース前後に官学連携の事業として各種メディアに取り上げられ報道されるなど、法制度の説明及び点検報告の促進を周知する機会となった。令和元年12月1日現在、アプリの使用者は3,258人を数える。リリース1ヶ月で3,000人を超える方々がアプリを使用していることから、法制度周知にも一定の効果が出ていることが伺える。

② 法令知識がなく、自ら点検が出来ないことについて

消火器及び誘導標識のみを設置している1,000㎡未満の防火対象物は、当アプリを利用することで、点検から報告書作成までの一連の流れをこのアプリ一つで完結することができる。

③ 業者へ点検依頼することによる費用負担について

アプリを使用することで自ら点検を行うことが可能となり、費用負担は発生しない。

④ 法定様式への記載が難しいことについて

アプリの項目を入力することで自動的かつ簡便に報告書の作成が可能。出力後に個人情報を記載し、押印を行えば消防署へ提出出来る。

今まで点検業者へ委託し点検報告を行う一択であった消防用設備点検報告を、法令知識のない一般市民でも消火器・誘導標識の法定点検と難解な報告書の作成を簡便に、かつ費用負担なく実施できる環境を醸成した。

特記事項

当局では消防用設備未点検防火対象物約11,500件に対して令和2年1月に趣意書の郵送を計画している。趣意書にアプリのチラシを同封する予定であり、関係者へ「自ら点検」を促す。また、査察において消防用設備未点検の防火対象物関係者にその場で使用してもらい、報告書を出力、提出してもらうことも今後検討している。市民による「自ら点検」と「報告書作成」の簡便なツールとして広く周知・利用してもらうことで、仙台市の、ひいては全国の消防用設備等点検結果報告率改善に取り組んでいく。



※名称の由来(学生が提案)
「きかっと」
宮城県の方言「きちんと。整然と。」
アクセスURL
<http://tfu-sendaisyoubou.jp/index.html>



選考委員からのコメント

大学と連携して使いやすい無料の点検アプリを開発したことは、過去に事例がなく評価できる。今後、通信機器の性能が向上し、またアプリに慣れた世代が報告書の提出に関わることから展開が期待できる。